

## 中根敏晴先生退職記念号によせて

経営学部長 宮崎 信二

中根敏晴先生は、2015年3月31日をもって学長の任期（4年）を無事に終え、学長の職を退任されると同時に、名城大学を退職されることになりました。ここに名城大学および商学部・経営学部に対する先生の御貢献に感謝の意を表する次第です。

中根先生は、1970年3月に神戸商科大学（現・兵庫県立大学）大学院経営学研究科修士課程修了後、長崎造船大学（現・長崎総合科学大学）を経て、1976年4月に名城大学商学部（当時）の講師として着任され、1989年4月より教授として工業簿記、原価計算論などを御担当されました。また、1990年4月からは大学院商学研究科（当時）においても原価計算論、会計学原理研究を御担当されました。

1997年6月には商学部長に就任され、強いリーダーシップにより商学部の改組を指導し、こうして2000年4月に経営学部・経済学部が発足致しました。あわせて1999年4月より旧・商学研究科長として商学研究科の改組も行い、経済学研究科・経営学研究科の設置にご尽力されました。2003年4月には経営学研究科長に就任され、特に管理会計分野における研究・教育の高度化に努められ、また修士課程の「ものづくり・経営システムコース」ならびに博士後期課程の発展に多大なる貢献をなされました。旧・商学部時代より熱心でかつユーモアあふれる教育・研究指導と人柄により、先生は非常に多くの学生・院生から慕われ、多くの有為なる人材を育てられました。

研究面では、1996年に『管理原価計算の史的研究』を著わされ、これにより1997年「東北大学経済学博士（経済第70号）」を取得されました。さらに、2000年4月には、文部省（当時）の学術フロンティア推進事業として名城大学内に設立されました地域産業集積研究所の初代所長として、以後、トヨタ自動車をはじめ地域のモノづくり企業との共同研究や調査を精力的に行いました。こうした地域産業集積研究所の研究活動は、共著『トヨタ 原点回帰の管理会計』などのトヨタ生産方式（TPS）と原価計算・管理会計に関する著書の刊行や多数の論文を発表されるだけでなく、名城大学における産業と地域研究の新たな地平を切り拓くものとして高く評価されています。

中根先生は、2011年4月から第17代名城大学学長に就任され、就任直前に発生しました東日本大震災に際して教育・研究面での支援に努められ、また、2016年4月（予定）の新外国語学部とナゴヤドーム前キャンパスの開設など名城大学の国際化を推進し、総合大学としての名城大学のさらなる発展に大いに貢献されました。

ここに中根先生の名城大学での研究、教育、行政に対するご苦勞とご功績に心から感謝し、退職記念号を刊行し、先生に捧げたいと思います。今後は、なにとぞ健康に十分留意されて、これまで以上にご活躍されることを祈念し、退職記念号によせる言葉とさせていただきます。